

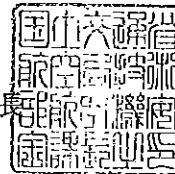


国空機第 1101 号
平成 22 年 3 月 26 日

社団法人・全日本航空事業連合会理事長 殿

国土交通省航空局技術部

航空機安全課長



小型機運航者に対する点検・整備作業の規定遵守に関する徹底について

平成 22 年 3 月 26 日運輸安全委員会は個人所有ソカタ式 TB10 型 JA4106 の事故報告書を公表した。

同報告書によると、事故原因は LH フロント・マニホールドが左前方接続パイプとともに外れたため、高温の排気ガスがエンジンルーム内に噴出し、エグゾーストパイプ左側付近のカウリング及びホースを焼いて火災になり、高温の排気ガスと火災により発生した煙がキャブレターを通過してエンジン内に入り、飛行に必要な推力を得られなくなり不時着水して大破したものと推定されている。さらに、左前方接続パイプが外れたことについては、航空機製造者のメンテナンスマニュアルに記載された注意書きが守られず、クランプの過度の締め付けにより接続パイプに発生したき裂に腐食作用が影響し、き裂を成長させたことが関与したものと推定されている。

航空機運航者においては、日頃より航空機の点検・整備は、航空機製造者等のマニュアルに従って実施してきたところではあるが、上記に鑑み、改めて傘下の小型機運航者に対してエグゾーストパイプ接合部に不具合がないか次回の飛行までに点検を行うとともに、部品の締め付け作業、不具合の有無の点検等の整備作業を、航空機製造者のマニュアル、関連規定等に従って、確実に実施することを周知徹底されたい。